

令和6年1月23日(火)  
10時00分から11時00分  
港区役所9階911～913会議室

## 令和5年度第1回港区消防団運営委員会

- 1 委員紹介 . . . . .【資料1】
- 2 消防団運営委員会の概要及び消防団の活動概要について . . .【資料2】
- 3 報告事項 . . . . .【資料3】  
令和3年度諮問に対する港区消防団運営委員会並びに特別区全体の答申  
を踏まえた対応方針について
- 4 審議事項 . . . . .【資料4～6】  
令和5年度港区消防団運営委員会への諮問について
- 5 その他  
港区消防団運営委員会日程 . . . . .【資料7】

### <配付資料>

- (資料1)港区消防団運営委員会委員名簿
- (資料2)消防団運営委員会の概要等
- (資料2-2)東京都の消防団現況
- (資料2-3)港区内消防団活動状況(令和5年)
- (資料3)港区消防団運営委員会並びに特別区全体の答申を踏まえた対応方針について
- (資料4)諮問事項
- (資料5)港区消防団運営委員会への諮問について
- (資料6)港区内消防団現勢
- (資料7)港区消防団運営委員会日程

## 港区消防団運営委員会委員名簿

資料 1

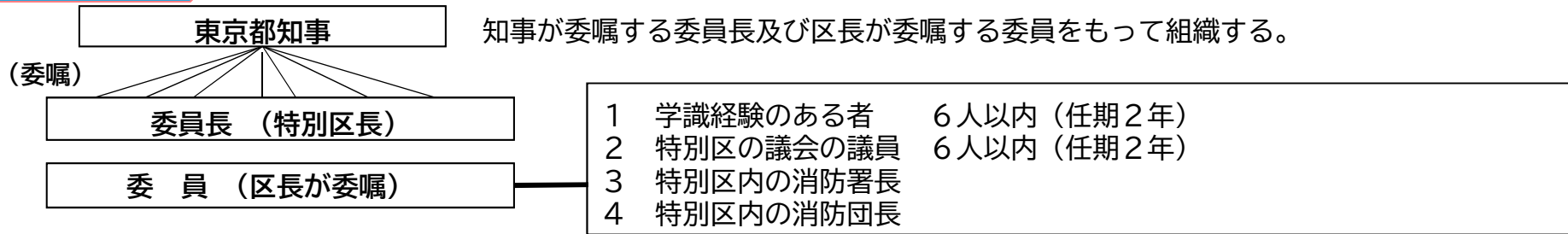
R5.10.1現在

職名	選出区分	氏名	任期	
委員長	区長	たけい 武井 <small>まさあき</small> 雅昭	退任 まで	平成16.6.28～
委員	学識経験者	かんの 菅野 <small>こういち</small> 弘一	2年	平成25.7.23～令和7.7.22
委員	学識経験者	いづえ 入江 <small>のぶこ</small> のぶこ	2年	平成29.7.23～令和7.7.22
委員	学識経験者	まる 丸 <small>てつお</small> 哲夫	2年	平成23.12.13～令和7.8.31
委員	学識経験者	いせき 伊関 <small>のりこ</small> 則子	2年	平成29.9.1～令和7.8.31
委員	区議会議員	のもと 野本 <small>たつや</small> たつや	2年	令和5.7.20～令和7.7.19
委員	区議会議員	みた 三田 <small>あきら</small> あきら	2年	令和5.7.20～令和7.7.19
委員	区議会議員	ひょうろ 兵藤 <small>ゆうこ</small> ゆうこ	2年	令和5.7.20～令和7.7.19
委員	区議会議員	ねもと 根本 <small>ゆう</small> ゆう	2年	令和5.7.20～令和7.7.19
委員	区議会議員	なかまえ 中前 <small>ゆき</small> 由紀	2年	令和5.7.20～令和7.7.19
委員	芝消防署長	きた 喜多 <small>ひろき</small> 洋樹	退任 まで	令和4.4.1～
委員	麻布消防署長	やの 矢野 <small>えいいち</small> 英一	退任 まで	令和4.4.1～
委員	赤坂消防署長	きよたけ 清武 <small>なおゆき</small> 直志	退任 まで	令和5.10.1
委員	高輪消防署長	みやかわ 宮川 <small>かつひろ</small> 克広	退任 まで	令和4.10.1～
委員	芝消防団長	さらい 櫻井 <small>いずみ</small> 泉	退任 まで	令和4.4.1～
委員	麻布消防団長	しだ 志田 <small>かねき</small> 周規	退任 まで	令和5.4.1～
委員	赤坂消防団長	たけだ 竹田 <small>たかお</small> 隆雄	退任 まで	令和4.4.1～
委員	高輪消防団長	やなぎまち 柳町 <small>よしお</small> 義夫	退任 まで	令和4.4.1～

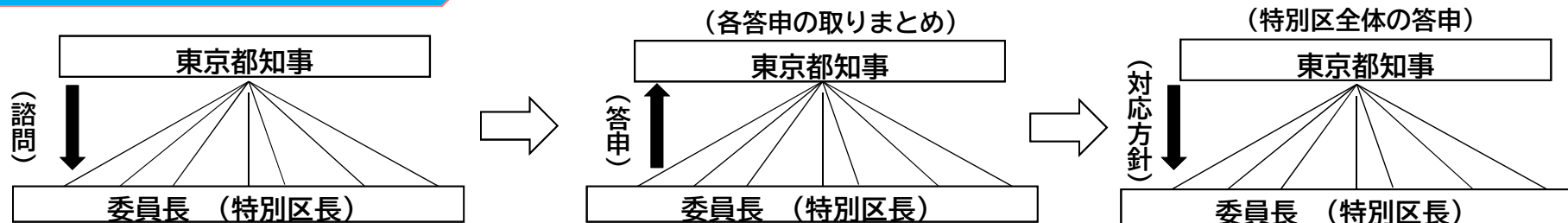
## 1 概要

- 特別区において、消防は「特別区の区域を一の市とみなして」東京都がその管理を担うと消防組織法に規定されており、消防団についても東京都がその事務を担っている。
- 特別区における消防団にかかわる役割は、特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例（平成11年東京都条例第106号）に基づき、消防団長の任命や東京都知事の附属機関として消防団運営委員会を設置することなどとなっている。
- 消防団運営委員会
  - 1 設置目的  
消防団の組織の整備を図り、その運営を円滑に行うことを目的とする。
  - 2 所掌事務  
消防団運営委員会は、知事の諮問に応じ、次の事項を審議して答申する。
    - (1) 消防団の組織に関すること。
    - (2) 消防団員の確保に関すること。
    - (3) 消防団員の待遇改善に関すること。
    - (4) 前各号のほか、上記の「設置目的」を達成するため必要な事項

## 2 組織図等



## 3 諮問から答申までの流れ



# 東京都の消防団現況

(令和4年4月1日現在)

	消防団数	定員〔名〕	現員〔名〕
特別区	58消防団	16,000	1,3441【2,793】
多摩地区	30消防団	9,066	7,612【237】
島しょ地区	10団	1,587	1,074【26】
計	98消防団	26,653	22,127【3,056】

※【 】内は女性消防団員数（内数）

# 消防団の任務について

火災	1 消火活動	災害の予防	年末年始や各種催物などの開催に伴う消防特別警戒を実施し、災害の発生を未然に防止します。
	2 救護活動		
	3 消防警戒区域の設定		
	4 逃げ遅れ者などの情報収集		
水災	1 災害状況の情報収集、監視	防火防災指導	防火防災に関する知識・技術について、住民指導の機会をとらえ、地域住民に普及・啓発を図り、防災行動の向上を図ります。
	2 水防活動		
	3 住民の避難に伴う誘導		
震災	1 地震の被害や逃げ遅れ者などの情報収集	防火防災指導	防火防災に関する知識・技術について、住民指導の機会をとらえ、地域住民に普及・啓発を図り、防災行動の向上を図ります。
	2 可搬ポンプなどを活用した消火活動		
	3 住民の避難誘導やけが人の応急救護		
	4 消防署隊の活動支援		

# 活動状況

## 火災

## 火災(訓練)



- 1 消火活動
- 2 救護活動
- 3 消防警戒区域の設定
- 4 逃げ遅れ者などの情報収集



## 水災(訓練)



- 1 災害状況の情報収集、監視
- 2 水防活動
- 3 住民の避難に伴う誘導

## 震災(訓練)



- 1 地震の被害や逃げ遅れ者などの情報収集
- 2 可搬ポンプなどを活用した消火活動
- 3 住民の避難誘導やけが人の応急救護
- 4 消防署隊の活動支援



## 災害の予防



年末年始や各種催物などの開催に伴う消防特別警戒を実施し、災害の発生を未然に防止します。

## 防火防災指導等



防火防災に関する知識・技術について、住民指導の機会をとらえ、地域住民に普及・啓発を図り、防災行動力の向上を図ります。



## 港区内消防団活動状況(令和5年)

		芝		赤坂		麻布		高輪		港区合計	
		件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員
災害出場	火災	10	98	3	6	9	21	5	19	27	144
	水災	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 (火災、水災以外の災害)	0	0	0	0	2	6	0	0	2	6
予防警戒 (警戒業務、防火防災指導等)		115	710	177	707	123	444	52	519	467	2,380
教育 (訓練、演習等)		468	937	273	2,180	395	1,791	178	2,701	1,314	7,609
機械整備 (積載車及び可搬ポンプ整備)		59	269	59	182	55	132	143	186	316	769
合計		652	2,014	512	3,075	584	2,394	378	3,425	2,126	10,908

1 諮問事項

大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか

(審議期間：令和3年10月から令和5年3月まで)

2 審議項目

**I 本業等をもち、時間等の制約がある消防団員が効率的・効果的に活動能力を向上させる方策**

- 1 実戦的活動力の向上関係
- 2 研修等の充実関係
- 3 訓練環境の充実関係

**III 消火活動能力を低下させないための入団促進及び充足率の維持向上方策**

- 1 若い世代の団員確保関係
- 2 募集広報の充実・強化関係
- 3 各種制度の利活用関係

**II デジタル環境を有効活用した知識・判断力等の向上方策**

- 1 現行のデジタル環境の活用関係
- 2 新たなデジタル環境の整備関係

**IV 効果的かつ負担軽減した装備資機材の検討**

- 1 新たな資機材関係
- 2 軽量化など負担軽減関係

3 主な答申内容及び対応方針

**I 本業等をもち、時間等の制約がある消防団員が効率的・効果的に活動能力を向上させる方策**

港区消防団運営委員会の答申	特別区全体の主な答申	対応方針
<p>1 実戦的活動力の向上関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇特別区消防団震災時活動マニュアル等を活用した実戦的、効率的な訓練の推進</li> <li>◇署隊の装備や資器材に関する教育訓練及び署隊と連携した実戦的な訓練の推進</li> <li>◇到達目標の明確化と実効性のある計画の策定</li> <li>◇通信の途絶を想定した情報収集、伝達訓練の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別区消防団震災時活動マニュアル等を活用した実戦的な訓練及び署隊と連携した訓練の推進</li> <li>○実際の街区を使用した震災想定の実戦的な訓練の推進</li> <li>○消防団が主体となった総合的な訓練の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新たな訓練モデルの提示・検証による実戦的活動力の向上</li> <li>□積載車による出場から放水まで等の一連の火災対応訓練の推進</li> <li>□消防団訓練指導マニュアル等の整備による主体的な活動の定着化</li> </ul>

# 港区消防団運営委員会並びに特別区全体の答申を踏まえた対応方針について

港区消防団運営委員会の答申	特別区全体の主な答申	対応方針
<b>2 研修等の充実関係</b> ◇部隊の統括、指揮に関する研修における受講人員の増強 ◇職員の消防団に対する指導能力の向上を目的とした研修	○消火班等に特化した研修や教育など教育訓練の充実 ○職員と団員が同一研修に参加するなどの統一的な教育の推進 ○消防学校が行う研修や資格取得講習の受講人員の増強	<input type="checkbox"/> 可搬ポンプ実技講習の試行・検証 <input type="checkbox"/> 消防学校研修や各種講習のアンケートや時勢を踏まえた随時見直し <input type="checkbox"/> 消防団の消防学校研修への職員の聴講の検討
<b>3 訓練環境の充実関係</b> ◇日中だけでなく夜間も訓練可能な大規模な訓練場所の確保 ◇解体予定の建物を活用した訓練の推進	○消防署訓練施設や方面訓練場などの更なる活用 ○区など関係機関等と連携した新たな訓練場所の確保や総合的な訓練を実施できる大規模な訓練場の整備	<input type="checkbox"/> 消防署訓練施設や方面訓練場を有効に活用した訓練の推進 <input type="checkbox"/> 区など関係機関と連携した訓練場所の確保推進

## II デジタル環境を有効活用した知識・判断力等の向上方策

港区消防団運営委員会の答申	特別区全体の主な答申	対応方針
<b>1 現行のデジタル環境活用関係</b> ◇e-ラーニングの活用とコンテンツの充実 ◇オンラインによる集合教養 ◇訓練時の遠隔指導と録画映像による振り返り訓練 ◇団員間での意見・情報交換への活用	○オンライン教養や遠隔による訓練指導の推進 ○訓練録画映像による振り返り訓練の推進	<input type="checkbox"/> 東京消防団e-ラーニングシステムの更新による利便性の向上 <input type="checkbox"/> タブレット端末を有効に活用した教養や訓練の推進
<b>2 新たなデジタル環境の整備関係</b> ◇災害活動のロールプレイング、災害対応や指揮判断等のソフトの導入 ◇QRコードを活用した各種資器材の動画等のアプリの導入 ◇タブレット端末やWI-FI機器の増強 ◇ARやVR等の技術を活用した訓練施設、体験型施設の整備	○災害対応や指揮の判断等ができるアプリの開発や導入 ○二次元コード活用による各種資器材の取扱説明動画の導入 ○ARやVRなど最新のデジタル技術を活用した訓練環境の導入	<input type="checkbox"/> 各種資器材取扱い動画等にアクセスできる二次元コード読取り方式の導入検討 <input type="checkbox"/> ARやVRなどの技術を活用した訓練導入に向けた調査研究（ARやVRなどの調査研究委託）

# 港区消防団運営委員会並びに特別区全体の答申を踏まえた対応方針について

## Ⅲ 消火活動能力を低下させないための入団促進及び充足率の維持向上方策

港区消防団運営委員会の答申	特別区全体の主な答申	対応方針
<p><b>1 若い世代の団員確保方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校、企業等との連携</li> <li>◇学生や若手職員を対象とした体験入団の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若年層へSNSでの情報発信、インターネット広告の充実</li> <li>○学生や企業の若年層を対象とした募集や体験入団の推進</li> <li>○現役団員との座談会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□HP、SNS等を活用した消防団活動に興味を抱く情報発信の推進</li> <li>□あらゆる機会での消防団活動の見学や資機材等の展示の推進</li> <li>□現役消防団員との座談会の実施方法の検討</li> </ul>
<p><b>2 募集広報の充実・強化関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇区報の1面を活用した特集記事による広報</li> <li>◇女性や学生などの対象に応じたリーフレットを活用した募集広報</li> <li>◇負担が少なく資格や能力を活かせる、機能別団員制度を活用した入団促進活動</li> <li>◇学校や教育委員会と連携した、学生の年代に合わせた入団促進活動の推進</li> <li>◇団員へのインタビュー動画の作成</li> <li>◇SNSによる情報発信とコミュニティの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SNSの活用やインターネット広告による募集の強化</li> <li>○対象別（学生、女性など）リーフレットを活用した募集広報</li> <li>○団員のインタビュー動画の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□インターネット広告による募集広報の拡充</li> <li>□「東京消防団エントリーシート」を活用した入団促進</li> <li>□団員インタビュー動画等を活用した地域紹介や消防団の魅力が伝わる広報の推進</li> </ul>
<p><b>3 各種制度の利活用関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇大学での若手消防団員による特別区学生消防団活動認証制度の周知</li> <li>◇退団者、退団予定団員、退職消防職員に対する大規模災害団員制度を活用した人員の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消防団協力事業所及び制度の周知</li> <li>○学生消防団認証制度のメリットの周知・付加価値の検討</li> <li>○大規模災害団員制度等による団を継続できる環境の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□消防団協力事業所による社会貢献や消防団PRの強化</li> <li>□学生認証制度の周知による募集広報の強化</li> <li>□大規模災害団員制度等の更なる周知と活用による退団への対策の強化</li> </ul>



# 港区消防団運営委員会並びに特別区全体の答申を踏まえた対応方針について

## IV 効果的かつ負担軽減した装備資機材の検討

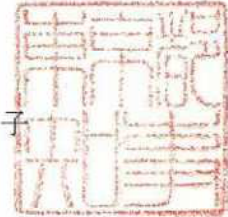
港区消防団運営委員会の答申	特別区全体の主な答申	対応方針
<p><b>1 新たな資機材関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇資機材等の搬送車を常置できる格納庫の設置</li> <li>◇少人数でも効率的な活動ができるよう、アシスト付きホース延長台車、キャスター付ホースバッグ及び背負い式ホースバッグ等の導入</li> <li>◇長時間活動の負担を軽減する、台座付きの放水銃や開閉コック付きノズルの導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホース延長など、より迅速かつ負担軽減可能な資機材整備（ホースバック、電動のホース延長台車等）</li> <li>○震災時等に備えた大量放水できる消火資機材の整備（台座付き放水銃、大量放水可能な軽量GN等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□震災時等、迅速にホース延長できるホースバックの整備</li> <li>□資機材の電動化や新しい技術を取り入れた資機材の導入検討</li> <li>□消火能力や安全管理向上のための資機材の導入検討</li> </ul>
<p><b>2 軽量化など負担軽減関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇既に配置されている資機材の軽量・コンパクト化や耐久性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○油圧救助資機材や手引き可搬ポンプ搬送台車など、各既存資機材の軽量化やコンパクト化、電動化の検討</li> <li>○既存資機材の整理統合の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□更新に合わせた既存資機材の軽量化やコンパクト化など市場の開発動向の注視と検討</li> </ul>



5 東 消 防 消 第 4 3 1 号  
令 和 5 年 8 月 1 6 日

港区消防団運営委員会  
委員長 武 井 雅 昭 様

東京都知事 小池百合子



特別区の消防団の設置等に関する条例（昭和38年東京都条例第53号）第4条の規定に基づき、別紙のとおり諮問します。

## 別紙

### 1 諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

### 2 趣旨

特別区消防団は、地域になくってはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応じてきたところである。

さらに、本年は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核である消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策について諮問するものである。

### 3 審議期間

令和5年8月から令和7年3月まで

### 4 答申期日

令和7年3月31日

## 1 諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

## 2 審議期間

令和5年8月から令和7年3月まで（1年8か月）

〈審議回数：令和5年度1回、令和6年度2回 計3回〉

## 3 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。

さらに、本年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。



## 課題と検討事項（港区消防団運営委員会諮問）

### 諮問

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

### 課題

変化及び成長することにより、活動力を地域で発揮していくことが重要である。

#### 検討事項 1

活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、検討する。

#### 検討の方向性

- ① 団活動によりやりがいを持てる方策の検討
- ② 資格取得講座の拡充等の検討
- ③ 多様な主体と協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討

#### 検討事項 2

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

#### 検討の方向性

- ① 災害への出場命令や団員間の情報伝達の方法の検討
- ② 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討
- ③ 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討

#### 検討事項 3

消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

#### 検討の方向性

- ① 経験が浅い団員への教育訓練体制や目標、内容の検討
- ② 経験豊富な団員による訓練指導体制の検討
- ③ 操法訓練と実動訓練の目安などの検討
- ④ 訓練効果の確認方策について検討

#### 検討事項 4

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

#### 検討の方向性

- ① 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討
- ② 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討

# 港区内消防団現勢

資料6

(令和5年12月1日速報値)

所 属		芝	麻 布	赤 坂	高 輪	23区
定数		220	120	130	110	16,000
現員数(居住・勤務・学生)		220	98	111	108	13,850
充足率		100.0%	81.7%	85.4%	98.2%	
区(都)平均(%)		91.3%				86.6%
内訳(人数)	男性	125	75	94	79	10,718
	女性	95	23	17	29	3,131
内訳(%)	男性	56.8%	76.5%	84.7%	73.1%	
	女性	43.2%	23.5%	15.3%	26.9%	
区(都)平均(%)	男性	72.8%				77.4%
	女性	27.2%				22.6%
大規模災害団員数		0	4	0	0	186
居住地団員	人数	112	75	61	83	10,659
	%	50.9%	76.5%	55.0%	76.9%	
	男性	86	60	52	64	8,520
	女性	26	15	9	19	2,139
	区(都)平均	64.8%				77.0%
勤務地団員	人数	49	21	46	18	2,111
	%	22.3%	21.4%	41.4%	16.7%	
	男性	36	13	40	11	1,616
	女性	13	8	6	7	495
	区(都)平均	25.5%				15.2%
協力事業所	事業所数	11	1	6	4	357
	団員数	22	2	15	5	1,008
学生団員	人数	59	2	4	7	1,080
	%	26.8%	2.0%	3.6%	6.5%	
	男性	3	2	2	4	583
	女性	56	0	2	3	497
	区(都)平均	9.7%				7.2%
平均年齢	平均	44.7	50.6	52.5	52.3	
	男性	53.6	51.2	52.6	52.7	51.5
	女性	33.0	48.5	52.4	51.0	47.5
	区(都)平均	48.9				50.5

## 港区消防団運営委員会日程

(担当 麻布消防署)

回数	開催日程等	議 題
令和5年度 第1回	日時：令和6年1月23日(火) 時間：10時00分から 11時00分まで 会場：港区役所9階 911～913会議室	1 令和3年度諮問に対する港区消防団運営委員会並びに特別区全体の答申を踏まえた対応方針について 期間：令和3年10月から令和5年3月 2 令和5年度港区消防団運営委員会への諮問事項及び対応方針について 【諮問事項】 「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」 3 今後の審議予定等について
令和6年度 第1回	日時：令和6年7月下旬～8月上旬 会場：未定 時間：未定	1 港区消防団運営委員会答申(案)について 2 今後の審議予定等について
令和6年度 第2回	日時：令和7年2月中 会場：未定 時間：未定	1 港区消防団運営委員会答申(案)について

※ 令和6年度第1回の開催日等は事務局で調整し、決定次第お知らせいたします。

※ 港区消防団運営委員会の答申については、令和7年3月末までに東京消防庁防災部消防団課（事務局）に提出する予定です。